

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年11月21日(金)

雑感

よく父から言われた言葉。
「寒かなら
動けばいい」
そんなことを言われてもねえなんて思っていたが、最近はそのでもない。休日の午前中から遅い午後にかけては、家でじっとしているより体を動かしていた方が、体調が良いように感じている。ヒーターを効かせた狭い部屋では何となく気持ちの健康が保てないような気がするのには私だけではなと思う。体を動かすことによって体の中心から熱をつくる。体を温めるというには健康維持のために重要なことだ。実に経済的で理に適った方法だ。

働きの雑感

最近、片頭痛がする時がある。頭痛というよりは首の後ろ側が痛くなるのだ。いつも、姿勢の良さは働き方に直結するものな気がする。と感じるのは私だけだろうか。この頭痛がする時は、決まってPCC作業を長時間した後だ。そういう時は、仕事の美も上らず、時間の無駄になっている時が多い。背中を丸めてPCC画面を見つめ、考えられているような姿をよく見かけるが、余り結果にはつながっていないようだ。ある本にこのような文章があった。姿勢は感情に影響を与える。このような実験があるようだ。40の単語を見てから8分間歩く。Aにはよい姿勢であるかせ、Bには悪い姿勢で歩かせる。すると歩いた後に思い出す言葉に差が出た。Aはポジティブな単語を多く思い出し、Bはネガティブな単語を思い出すことが多いという結果だ。しかも、思い出す単語の量はAの方が多い。これが何を意味するかは自明だ。何をすると、良い姿勢を保つ、ポジティブにいきたいものだ。

子供達が生きる未来社会⑥

2045年問題って知っていますか。2045年といつこれからの20年後、6年生は32歳の頃、すでに仕事に就き現場でバリバリ活躍している頃でしょう。実は2045年、人工知能が人間を超えてしまうといつことが予想されています。人工知能(AI)が自らを規定しているプログラムを自身で改良するようになる。理論的には永続的に進化を遂げるようになります。この結果、ある時点で人間の知能を超えて、それ以降の昇進などはすべて人間ではなくAIが担うようになり、それ以降の進歩を予測できなくなるという予想です。すこい世の中ですね。それを象徴しているドラマが数年前放送されていた。医療ドラマでしたが、この中でAIが手術の方針を決めるという場面があります。この場面が私に感じさせたのは、AIに頼りすぎる人間は考えなくなるのではないかという点でした。AIは学習を積み重ねていくのでしょうけれど、人間にはAIが及ばない複雑な感情があると思います。機械的でなく人間的な配慮もあるように思います。

未来に向けて、私は子ども達にAIとうまく付き合っていく術を身に付けてもらいたいと考えています。私もAIについて勉強中です。

シリーズ「自分を語る」#50

平成10年度の学校には怠惰による不登校傾向のお子さんがいました。私はとても達を観察する視点として、現象面だけでなく家族背景や本人の性格(特別支援教育の視点から)、お家の人たちの願いも参考にします。確かにこのおさんの不登校傾向の理由は「怠惰」でした。しかもその理由には驚かされること多く「ゲームがしたい」「テレビが見たい」「といふようなものでした。それなら話早いですが、学校が家にいるよりも魅力的な場所に変えられないのです。と言っても簡単なものではありませぬ。保護者の皆様にもあやと思つたのですが「学校は好きだけれど、勉強は嫌い」といふ気持ちです。そこでその年に徹底していきだいたいを幾つか、子ども達に告げました。

基本の考え方「時を守り、場を整え、心を育む」それを基本として、
第1に「嘘をつかない」。
第2に「ダメなものはダメ、せにやらないかん」といふこと。」「(是々非々の考え方)第3に「規則が守られる学校を目指せ」。
第4に「正義が認められる学校を目指せ」。
第5に「甘えやわがままは許さない」。

この年に担任をさせて頂いた学校は、もともと能力の高いお子さんが多い集団でした。特に勉強に関しては、それまでの職員が伝統的に鍛えておいてくださったおかげでした。この学校の教員から「医者」が数名生まれ、現場で活躍している人はよく私に連絡をくれます。」「うちの病院で検査して欲しい。」「とか、先生のホムドクターになります。」「言ってくれます。でも複雑です。少々怖いですが、彼らの小学生時代を知っていますか。」「話が逸れましたね、もに戻しまして...」

不登校傾向のおさんとはとても優しく、皆から親しまれていました。彼はゲームとテレビがとても好きで、大衆芸能も好きで「寝るを忘れる」こともあつて、これではいけないと、お家の人がテレビやゲームの横に食事を持って行ってあげていたので、これが成長期の子でも良いわけがありません。その辺りからアクションを起こさないと、この子は本当に不登校になってしまう、引きこもりになってしまう、と危機感を持っていました。

4月は調子よく登校していた彼ですが、ゴールデンウィーク明けから雲行きが怪しくなってきました。そこで、朝から迎えに行く作戦を講じました。私が迎えに行くこともありました。友達も誘うこともありました。5月を持ちつたえ、6月からはナイトハイイクの話も出るようになり、彼も無事に夏休みを迎えました。しかもナイトハイイクの参加申し込みもして、私を含めた学年部の先生方が、あまの彼の変わりの様子を覗き込んでいました。

しかしながら、この話の「落し」はナイトハイイク当日に起こりました。玉子のナイトハイイクの移動は車を利用していましたが、集合はJR玉子駅でした。集合時刻の30分前からは全員集まっていたのですが、彼だけがいまません。連絡もありません。どうしたのでしょうか...。(つひ)